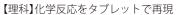
 大原 中等 茨

実技や実験を撮影し、深い学びへ

生徒たちはタブレット端末を使うことで、これまで難しかった 思考やイメージを可視化できるようになりました。

例えば「体育」の授業では、自分の動きを動画で撮影し、後から どんな動きをしているか客観的に確認しています。「理科」や「技 術」の授業でも、撮影した化学変化の様子をスロー再生して詳し く確認したり、実験の様子を何度も見直して調べたりしています。 また、欠席したクラスメートに実験の動画を送ることもできます。







【技術】実験の様子を動画で再確認



【体育】体の動きをクラスメートが撮影

デジタルでプレゼンテーション

「社会」の授業では、小郡市の人口減少や公 園整備などの課題とその要因、解決策をグ ループを組んで調べ、プレゼンテーションを しています。タブレット端末の配布以前は、 調べたことを模造紙に書き写すため、途中で の修正ができなかったり、作業が1人に偏っ たりするなどの課題がありました。

タブレット配布後は、教科書だけでなくイ ンターネットを使って、より幅広く調べるこ とが可能になりました。また、調べた内容を まとめたデータを共有することで、他のグ ループの資料を画面上で参照したり、プレゼ ンテーションをグループ全員が同時に編集し たりすることができます。さらに、発表を聞 いたクラスメートの意見を相互共有すること で、プレゼンテーションをブラッシュアップ しています。



【社会】タブレットを使い解決策をプレゼンテーション

今回ご紹介した2校以外の小・中学校でも、オンラインを利用したネイティブとの英会話や社会科見学、 小・中学校間の交流、ロボットを動かすためのプログラミングなどの学習を行っています。それと同時に、正 しく・安全にタブレット端末を利活用するための情報モ<mark>ラル教育にも力を入れています。</mark>

市内の小・中学校では、タブレット端末をノートや鉛筆と並ぶ文房具として活用しています。市教育委員会 は、これからの時代に求められる新しい教育にICTを取り入れ、地域の課題を解決する教育を通して子どもた ちの「未来に向かい、未来を拓く力」の育成をめざしています。

デジタルの力でリアルな学びを

問学校教育課学校教育係 ☎72-2111

令和3年、小郡市立の小・中学校で児童・生徒に1人1台のタブレット端末(ノートパソコン)が貸し出され <mark>ました。今では、授業で使うデータを児童・</mark>生徒たちがお互いにタブレット上で共有して同時に編集したり、 <mark>黒板に書かれた授業の内容を撮影して欠席し</mark>たクラスメートと共有したりするなど、時間と空間の壁を越えた 活用が進められています。今回、市内の小・中学校の中でも、福岡県教育委員会の「情報活用能力向上事業」の 指定を受け、より力を入れてICT教育に取り組んでいる2校の授業を紹介します。



ICTを活用した課題解決

主に「生活」と「総合的な学習」の授業で、ICTを活用し た課題解決的な学習を進めています。

例えば、地域住民と一緒に地域の課題を解決するこ とを目的とした授業では、ポピーの里あじさか館で毎 週開催されている「あじっこ市場」を小郡市の名物にし ようと、各グループでさまざまなアイデアをネット ワーク上で交換し、意見を出し合いました。



- 1地元の「あじっこ市場」の 野菜を使ったお菓子のレ シピを、ウェブ会議を活 用して市場の関係者に提 案しました。
- 2「あじっこ市場」をアピールするた めに、タブレットを使ってポス ターや紹介動画を試作し、地元の 人たちの思いや願いを聞きながら ポスターを改善しました。



ICTの活用は手段のひとつ

ICTを「授業の目的を達成するためのツール」として位 置づけ、身近な生活や地域の課題を解決するための主 体的な学びをつくるため、さまざまな授業場面で活用 しています。

■お客さんに商品の説明をしている様子。地域の人たちと一緒に「あ じっこ市場」を盛り上げました。